



学校教育目標「豊かな心と 確かな学力 つながりあう学校」 NO.17

庄内西小学校だより

令和3年(2021年)11月15日発行 校長 西口肇子



カラー版は『<http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/shonai-n/>』をご覧ください。

人権について考える

11月2日は人権参観日でした。今年は「障害理解」をテーマに授業を行いました。保護者の方に見られているということで、ちょっぴり、緊張気味の子もいましたが、多くは、いつも以上に張り切っていた様に思います。お忙しい中、御来校いただきありがとうございます。

人権とは、「誰もが生まれながらに持っている、人間として幸せに自分らしく生きる権利」のことです。生命や自由と同じように、とても大切なものであり、思いやりの心によって守られなければならないものです。相手の立場に立ち「自分だったらどうだろう。」と考えたり「どんなかんじかなあ？」と相手の気持ちを想像したりできる人権感覚の鋭い子どもたちに育てていきたいと思えます。

1年生：「みみがきこえない人のきもちになってみよう」

「耳が聞こえないと困ること」を発表したり、絵本「ローラのすてきな耳」の読み聞かせを聞いたり、ペアになって「耳の聞こえないローラちゃんに話しかけてみる」活動をしたり手話クイズをしたり、最後に「ビリーブ」の歌を手話付きで歌ったりしました。

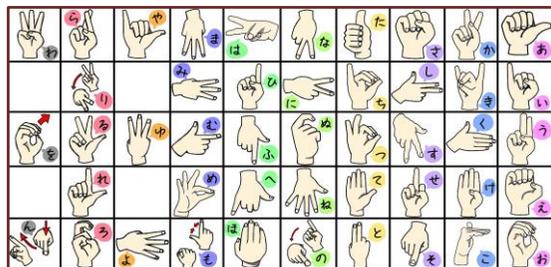
盛りだくさんな1時間でしたが、前向きで積極的な児童が多かったです。耳が聞こえない人の気持ちになって考えてみる事ができました。特に、「ビリーブ」の手話は、楽しみながら、上手に歌っていました。



2年生：「指文字や手話を知ろう」

テレビの動画を消音と通常音量で視聴してみても、感じたことを発表したり、指文字や手話を使って自己紹介をし合ったり、練習してきた手話の歌「ありがとうの花」や「にじ」をおうちの人に聞いてもらったりしました。

指文字には様々な意味や形があることを知り、熱心に覚えようとしていました。また、耳の聞こえない人には、身振りや手ぶり、表情をはっきり見せることが大事だと気が付きました。



3年生：「目が見えないとどんなことが大切になるか感じてみよう」

身の回りにある視覚障害者への支援を考えたり？ハテナボックスで触感の大切さを感じたり、アイマスク体験をしたりしました。



「点字や点字ブロックが大切だとわかった。」「目の見えない人のためにたくさんの工夫をしているんだなと思った。」「点字ブロックの上に自転車を置かないようにしようと思った。」などの感想がありました。目の見えない人の大変さと自分たちが配慮すべきことについて学ぶことができたと思います

4年生：「視覚障害～点字について知ろう～」

パラリンピックでの視覚障害者向けの競技を知ったり、点字の絵本「テルミ」を指で読んだり、点字板を使って点字を打つ体験をしたりしました。



昨年、学習したパラリンピックや点字などについてよく覚えている児童が多く、積極的に発表していました。点字体験は初めてで、反転させて打つのが難しかったり、うまく穴を開けられなかったり、苦労している子が多かったですが、中には、コツをつかみ文章を打ち始める子もいました。

5年生：「聴覚障害～ユニバーサルデザインについて考える～」

耳の聞こえないマイケル・ホイ選手は、差別に負けずその実力で7大リーグに入ると、審判に「声だけでなくポーズで示してほしい」と訴えました。・・・「耳の聞こえないメジャーリーガー」というお話の読み聞かせを聞いて意見や感想を出し合いました。

今の野球の審判のポーズは、この話が原点になっていることを知り驚いていました。また、身近にある「ユニバーサルデザイン」について考えることもできました。



6年生：「みんながくらしやすい世界を目指して～みんなの「こまった」を解決しよう～」



視覚障害や身体障害などの目に見える障害の他に「発達障害」と呼ばれる目に見えない障害もあることを知り、さまざまな「困り感」にどう寄り添い、どんな関わり方をすればいいのかを考えました。

「苦手なことは代わりにしてあげる。」
「優しく見守ったりアドバイスをしたりする。」
などの意見の他に「自分の中にも《お困りモンスター》がいる。」と発言する児童もいました